非営利活動法人日本透析アクセス医学会　VA血管内治療認定医に申請される方へ

（要注意事項）

本年度に申請される方は下記チェックリストを十分に確認の上、申請ください。例年、申請にあたって提出書類の不備があまりにも多く、申請作業に支障をきたし認定に時間を要しております。

本年度より、日本透析医学会（JSDT）の申請条件が変更になったことを踏まえて当会の認定審査においてもより厳密化しております、ご注意ください。

本年度は下記チェック項目を事前に申請者が責任をもって確認していただくこととし、下記チェックリストの内容に関して不備があった場合、その時点で審査に回すことなく失格とする場合がございますのであらかじめご了承ください。お互い貴重な時間を要しての作業です。何卒よろしくお願いいたします。

提出時チェック項目（十分に確認した場合のみ☑してください。なお☑ない場合、書類の受付は出来ませんのでご了承ください。）

★★JSDT専門医の場合★★　本用紙は提出時に添付してください。

☑欄　最終的にすべての提出者の責任でチェックしていない場合には受け付けられません。

□申請時、本会の会員である。

□JSDT専門医認定証の複写を添付した。

□本学会学術集会・総会過去3回以上参加している。その証明を添付した。（第23回以前の大会の場合、参加証明に変えて参加したことを客観的に証明できる書類で代用可とする（例えばホテル領収書、交通機関の領収書、ご施設の責任者の参加証明など）

あるいは本会の研修会（PTA）に参加した証明を添付した。

□過去5年以内（具体的には2018/11/01-）のVA血管内治療（ここでいうVA血管内治療とは経皮的血管内治療（PTA）であり、血管開放下におけるバルーン拡張術は不可、シャント作製やバンディング、カテーテル挿入などは血管内治療ではないので不可。以下同じ）に関する発表ないしは論文があり、その内容を添付した。（発表なら抄録、論文名から別刷ないしはそのコピー）（いずれも筆頭者ではなくてよい）自作のWORD、PPTXなどの提出ではない。

□抄録、論文本文内に“VA血管内治療”、“PTA”、”VAIVT”、“内シャントPTA”などの単語が入っていることを確認した。（ない場合、その時点で不可であり、審査には回さない。ある場合にのみ内容に関して審査に回すことになる。）

□その発表ないしは論文はメーカー主催の会のものではない。共催は可。

□申請時に術者としてVA血管内治療経験が100例以上ある。（助手、指導者では不可。）

□VA血管内治療症例は、用意されたEXCELフォームに入力し提出用を出力した。また入力にあたっては入力ミスがないことを再度確認した。（ミスある場合には失格となり、提出後の修正は受け付けないことも理解した）

□提出した症例は上記のＶＡ血管内治療の範疇に入っている。

□申請症例は手術記録を提出できる症例のみを選択した。手術記録には、医療法細則第十条に則り、術者名、患者の氏名等手術記録をそれぞれ識別できる情報（ただし提出時は識別できないように処理要）、手術を施行日、手術を開始した時刻及び終了した時刻、行った手術の術式（内シャントPTA）が記載されていることを確認した。

□提出後、無作為抽出した症例に関して提出を指示された場合、期日内に提出できる症例のみを記載した。（期限内に提出できない場合、いかなる理由いかかわらず不合格になることを理解した）

□申請手数料の振り込み確認書類の複写を添付した。

□今後の連絡先に指定したＥメールアドレスは常時受信できるアドレスである。（連絡は全てＥメールで行うため、連絡つかない場合には審査継続できないこともあることを理解した）

□症例偽造など不正行為をした際には、申請できない欠格期間を課される可能性、認定後の取り消し処分もあることを理解し、また不正を行っていない。

□本用紙を申請時に一緒に添付した。